



2015～16 年度
国際ロータリー会長
K. R. ラビンドラ

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度
新潟ロータリークラブ会長
竹石 松次

新潟 RC2 月第 1 例会 (2016.2.2) No.3120

(1) 「君が代」斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱

(2) 竹石 松次 会長挨拶

渡辺義雄

明治四十年（1907）～平成十二年（2000）

三条市（旧・南蒲原郡三条町）に父・寅蔵、母・ツウの七男三女の五男、家は呉服商であった。三条尋常小学校、新潟県立三条中学に入り、この中学の入学父からお祝いに買って貰ったコダックのポストカード判カメラが写真との出会いであった。

大正一四年（1925）、卒業後上京し、小西写真専門学校・東京写真専門学校・現・東京工芸大学に入学、本格的な写真技術を学ぶ。在学中から写真店に応募し、特選を繰り返し受章するなど、評価を得ていた。

昭和三年卒業と同時に、オリエンタル写真工業写真部に入社し、ガラス乾板のテスト撮影を行う。この年、「写真月報」の懸賞写真で特選受賞、以後、第一回新興写真展覧会、東京都写真士会第一回展覧会に出品するなど、次第にその行動範囲を拡大する。

大正九年（1920）代にヨーロッパで起こった新しい写真の潮流を我が国でも採用する流れで、都市やそこに生活する庶民の生活、複数の写真を組み合わせたグラフ・モンタージュ、建築を写真家の目を通して切り取るなど時代を切り取る手法を探究して注目される。

カフェやレビューといった新しい都市の息吹を表現する手法を開発、しかも、小型カメラを使って表現するなど変貌する東京の姿を撮影した。

その後、会社を退社し、銀座にスタジオを設立、雑誌や国際文化振興会から依頼された写真壁画「日本の住生活」の撮影を行い、戦時色の強まる中で、国内から外国での仕事も引き受けるようになった。

この間、パリ万国博、サンフランシスコ万国博覧会、ニューヨーク万国博覧会に作品が展示される。

昭和一四年（1934）から六年間、かつて自身が学んだ、東京写真専門学校講師として教鞭をとることとなった。

終戦時の昭和二十年（1945）、東京大空襲でそれまで撮り溜めていたネガやプリントを焼失した。

昭和二十三年竹山芳子と結婚、結婚後は、建築写真家としての活動範囲を広げ、昭和二十八年（1953）、の伊勢神

宮、第五十九回式年遷宮に際し、内宮と外宮御垣内の撮影に参画している。

以後、昭和四十八年、平成五年の三回にわたって神宮の神々しい姿を記録している。平成二十五年の遷宮は、内外から大勢の参拝者で賑わったが、義雄の姿はなかった。

白砂利の上に建立された内宮の姿は、白木造りの、屋根のひさしの下から観た正殿、正殿床下柱と木階、そこに表現されたモノクロームでなければ表現できない木組みの素晴らしさ、木の間から射し込んだ陽の光が織りなす波型紋、写真家が精魂込めた作品が残されている。

仏像の土門拳、建築の渡辺義雄と称される大家で、写真技術だけではない信念が表現されている。

底流を流れている精神は、日本人の精神性と連綿と継承された技術の結晶、ここに焦点を当てている姿に多くの人から称賛の声が聴こえてくる。

「建築と写真」・写真文化で、

「優れた建築写真の具備すべき条件は多々あらうが、先ず建築特有の形態及意匠が説明的であること、その建築の用途、即ち工場は工場らしさ、住宅は住宅らしさがうかがはれなくてはならないこと、次に量的効果、即ち立体感の表現と、構造材料の質感の描写が充分に果たされてゐること等が挙げられる。それには写真的に立派な階調と、先鋭度が必要である。」

と述べている。

三条市歴史民俗産業資料館の中に、名誉市民、日本画・岩田正巳、贅女・小林ハル、写真家・渡辺義雄の功績が残されている。

昭和三十三年（1958）、芸術選奨文部大臣賞、通産大臣賞受賞、翌年には、世界平和評議会総会で銀メダル受賞、そして、紺綬褒章、亡くなる十年前の平成二年（1990）、文化功労者、三条名誉市民、そして、東京都写真美術館館長に就任、平成十二年七月、九十三歳の生涯を終えた。

写真集「帝国ホテル」「伊勢神宮」など、優れた写真集を残している。

最後に、撮影雑記「伊勢神宮」の中で、日本文化陰影についてレンズを通して観た感想を語っている。

「空の白い曇り日は、檜の素木造りは、地面の白玉石と

ともに明るく、うすい赤みをおびた穏やかな感じである。
それが直射日光を受けると、丸い柱は輝きをまし、陰影部も明るい反射で黄金色に冴えて、建物全体が千木（ちぎ）、鯉魚木（かつおぎ）の金金具とともに光輝いて、実に高貴な美しさは形容しがたいすばらしさである。檜の素木の美しさを初めて知ることができた。」

(3) スペシャルオリンピックス新潟大会協賛金贈呈

スペシャルオリンピックス新潟大会副委員長加藤健一氏

へ会長より、150,000円贈呈。加藤氏謝辞

(4) 米山奨学生 朴 治国さん挨拶・奨学金贈呈

(5) 100%出席バッチの贈呈

安藤 智君 3年 鈴木 滋弥君 24年

(6) 誕生日お祝い贈呈（7名）

(7) 結婚記念日お祝いの紹介（4名）

(8) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(織戸 潔委員長)

伴 昭彦君 織戸 潔君

米山奨学会寄付発表(小林 敬直委員長)

徳永 昭輝君 小林 悟君

小林 敬直君

青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)

高橋 清文君 小林 敬直君

小林 悟君

(9) ニコニコボックス紹介

・佐藤 紳一君 2/1 新潟日報 食ひと紀行に店の商品にからんだ記事が書かれました。50年以上前の艶恋物語読んで下さい。祖父に感謝してます。次の新潟偉人伝 NO55くらいでのれたらおもしろいです。ちなみに今日、2/2はジジの日だそうです。

・登坂 直美君 御礼が遅くなりましたが、先日の新年会では年男と還暦のお祝いをいただきまして、ありがとうございました。今年もニコニコ頑張りたいです。

・川瀬 正幸君 昨日、竹中平蔵氏を講師に「ミサワホーム新春フォーラム」を開催させていただきました。大変多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。あらためてお礼申し上げます。

(10) 卓話「ANA 新潟空港路線の現状について」

全日本空輸株式会社新潟支店支店長 山田浩之氏

(11) 2月2日例会の出席率 77.66 %

会員数99名（出席免除会員 9名）

出席者 73 名（出席免除会員4名を含む）

（2週間前メーク後 82.11 %）

2月2日 理事会報告 出席者13名

1 竹石 松次会長挨拶

2 半期決算について

会計の安藤君より説明があり、原案の通り承認された。

3 浪江町訪問時の写真展について

概要と予算、開場式3月8日（火）の進捗状況が小田社会奉仕委員長より説明され、原案の通り承認された。

4 スペシャルオリンピックスの支援金と贈呈方法について

2日の例会にて15万円（クラブから3万円含む）をスペシャルオリンピックス新潟大会副委員長 加藤健一氏に贈呈する旨竹石会長より説明があり、原案の通り承認された。

5 入会被推薦者について

（医）社団 京愛会 本多レディースクリニック 理事長・院長 本多 晃君

（竹石 松次君 徳永 昭輝君 推薦）

（株）電通東日本

新潟支社支社長 安野 克彦君

（竹石 松次君、玉 知夫君 推薦）

被推薦者2名について、推薦が承認された。あわせて、樋熊副会長より、新しい申込用紙と推薦用紙の書式についての説明と、入会時の手続きに関する説明があり、承認された。

6 2月のプログラム＝承認

2日「ANA 新潟空港路線の現状について」
全日本空輸株式会社

新潟支店支店長 山田浩之氏

9日 会員スピーチ セコム上信越
社長 竹田正弘君

「植草甚一的な新潟の過ごし方」

16日卓話「石油産業の歴史と石油概要について」

カメイ株式会社 新潟支店

法人営業課 課長代理 小池雄一郎氏

23日 新潟市内7RC 合同例会

オークラホテル新潟

（ホスト新潟万代RC

18時登録 18時30分開会）

2月16日の例会予定

卓話「石油産業の歴史と石油概要について」

カメイ(株)新潟支店 法人営業課

課長代理 小池雄一郎氏